

## 新潟豪雨災害による被害

平成 16 年 7 月 13 日、新潟県中越地区を中心とした地域を大規模な集中豪雨が襲い、五十嵐川や刈谷田川など 6 河川で 11 か所が破堤し、市街地が浸水するとともに、各地でがけ崩れなどが多数発生しました。

新潟豪雨災害では、新潟県内で多くの人的・物的被害が生じました。特に三条市での被害は甚大となり、死者 9 名、重傷者 1 名、被害棟数 10,935 棟、被害世帯 7,511 世帯に及びました。

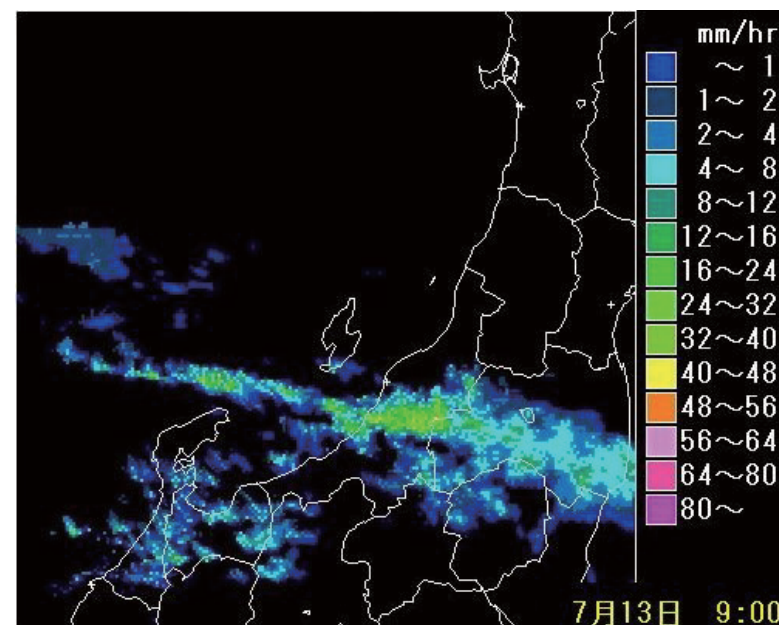


五十嵐川破堤場所（三条市諏訪地内）

## 記録的な集中豪雨

日本海から新潟県付近に停滞していた梅雨前線は、12 日夜から活発化して豪雨となりました。特に、13 日朝から昼過ぎにかけて三条地域、長岡地域を中心に非常に激しい豪雨となり、上流の笠堀ダム観測所では、昭和 40 年の観測開始以降最大となる 474mm（24 時間雨量）を記録しました。

三条市西裏館（消防本部）でも 217mm に達するなど、この日の雨量は、三条地域、長岡地域の一帯でこれまでの最大日降水量を上回りました。

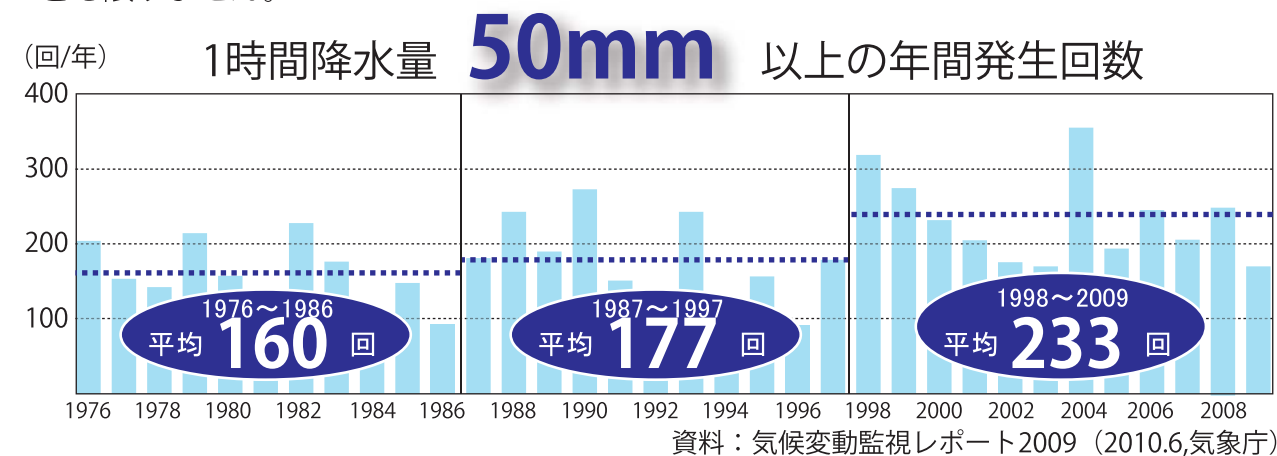


平成 16 年 7 月 13 日 午前 9:00 雨雲レーダー  
資料提供：新潟地方気象台

## 高まる豪雨の発生頻度

ゲリラ豪雨という言葉に象徴されるように、近年では雨の降り方が大きく変わってきています。これには、地球温暖化等による気候変動が影響していると考えられており、その影響として、昔に比べて豪雨の発生回数が大幅に増加する傾向にあります。

7・13 水害以降も全国各地で記録的な集中豪雨が発生しており、あの時をしのぐ豪雨が発生しないとも限りません。



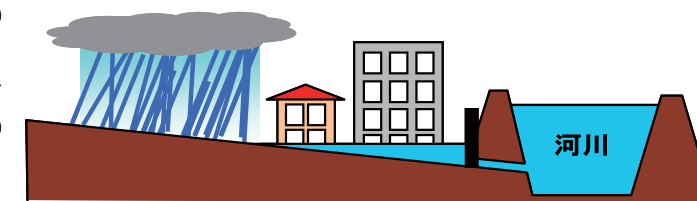
## 洪水の種類

### ないすいはらん 内水氾濫

市内に降った雨は、普段は下水や側溝などを通じて河川に放出されます。しかし、大雨によって河川水位のほうが高くなると、河川の水が下水や側溝を通じて市内へ逆流してしまいます。

このようなことの無いように、下水や側溝の門を閉めることがあります。

門を閉めると、今度は市内に降った雨の行き場がなくなり、市内に雨がたまりだします。このような氾濫のことを「内水氾濫」といいます。



### がいすいはらん 外水氾濫

大雨によって河川水位が高くなると、堤防を超えて水があふれたり（溢水）、堤防が壊れたり（決壊、破堤）することがあります。このような氾濫のことを「外水氾濫」といいます。

浸水の広がり方が非常に早いので注意が必要です。また、水の勢いが非常に強いので、水の中を歩くことが危険なばかりか、建物が流出したり破れたりする危険性が高まります。



では、現在の三条市に住む私たちは、どのような洪水災害に備えておくべきなのでしょう。

次のページの「**気づきマップ**」でまずはその全体像をつかんでおきましょう。